

収支見通しのない
大規模展示場

下奥議員振興環境委員会

財政面不安・便乗して大型開発
アジア競技大会招致

6月初めに視察をしてきた予定地は、実に広大な土地。ここに2019年9月開業する予定の大規模展示場だが、建設は「デザインビルド方式」というものです。下奥議員はまず、方式について質問しました。

「設計から建設まで任せてしまう『業者丸投げ』の方法では工事の内容にチェックが効かず、事業費が膨れ上がる危険性もある。」と指摘したのに対し、県は「リスクはない。問題ない。」と根拠もなく言い切りました。

収支は「毎月4万㎡規模の展示会をしなければ収支は合わないが、実際可能なのか」との質問に県は「PRに努める。シミュレーションしており、高い目標だが、現実離れしたものではない」と答えました。

確かな根拠があつての見積もりではなく、赤字になつた時、税金が投入されるのではないかという不安はぬぐいきれません。最後に「『財政難』というなら巨大事業を凍結し、県民の福祉・教育・若者支援にお金を使うこと」を求めました。



予定地を見るわしの・下奥議員

「戦争美化」にならないか
航空ミュージアム

今回の議案の「条例の一部改正」の中に、指定管理者制度を導入することがあります。下奥議員は事前に県からレクを受け「指定管理者は、展示の見せ方や、説明、案内などを行う」ことを聞きました。展示物は今の段階で、「日本の名機100選」の展示がされる予定であるということです。県のHPにも、「日本の名機100選」には戦闘機も載っており、「果敢にいどんだ」「命中率を上げた」と説明されています。

下奥議員は「まだ展示コンテンツも決まっていない段階で入場料を決めているのは、順序が逆ではないか」そして「民間である指定管理者の、展示・説明の仕方によっては戦争美化につながることが考えられる」ことを指摘し、「そういう時、県が意見を言つたりやめてほしいを言つたりすることは指定管理者に対してできるのか」と質問しました。

県は「入場料は類似した施設の料金を参考にしている。指定管理者選定には条例が必要。定期的にモニタリングして、より魅力ある施設にしていく」と述べ、「戦闘機」には言及しませんでした。

下奥議員は「県がやるべきは、素晴らしい技術が二度と軍事に使われず、平和的に利用されることを願うメッセージを発信していくこと。」と、戦争美化されないようゼロ戦展示は検討材料から除外することを強く求めました。

振興環境委員会メンバー
一番手前が下奥議員

補正予算に「招致金」として120万円が計上されました。下奥議員は「この招致金が何に使われるのか。何に使われたかわかる領収証は出るのか」と問い合わせました。答弁は「OCA憲章に『申請とともに支払う』とされており、使われ方は示されていない。領収証も出ない」ということでした。下奥議員は「県民の大切な税金を、そんな不透明なところに使うことに大変疑問を感じる」と指摘しました。

また、日程ありきで、県民の声を聞かず、納得できる説明もないまま進められている問題。そして、財政負担が増す懸念があるのに財政計画や試算も明らかになっていない問題を追及。「何にどれだけ費用がかかるか、試算をして、県民に情報を開示し、議会にも資料を出して、明らかにするべきでないでしょうか」とただしました。県は「8月末までに具体的な数字を盛り込んだ試算をする」と答えるにとどまり、財政面の不安を払拭するものにはなりません。

下奥議員は「アジア競技大会招致に向けて無駄遣いが広がり県民への負担が大きくなることが予想される。そうなれば防災対策、社会保障や福祉が置き去りにされてしまうのではないか」と県民の立場に立った県政を求めました。

